

# 研究シーズもしくは地域連携シーズ名:演奏家の手指・上肢の機能障害

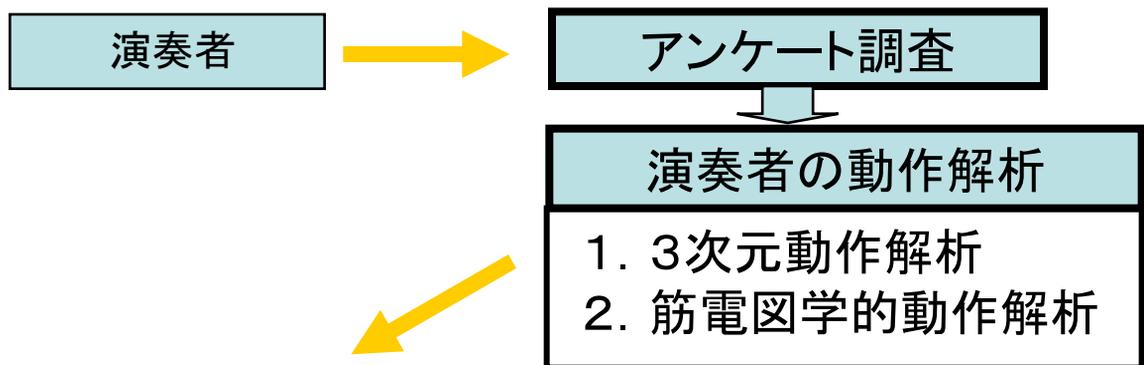
研究者:坪田 貞子 講座・専攻:基礎上肢機能障害学講座

## 内容の要約(200字程度)

演奏家の多くは何らかの手指・上肢に機能障害を有していると欧米では報告されています。演奏者はアスリートと同じ、肉体と精神を酷使する職業なのに、これらに対する注意がほとんど注意が払われておらず、演奏技術の習得が重視されてきたようです。よりよい演奏者として、手・上肢の機能障害を未然に防ぎ、良好なコンディションを作り、長く演奏活動を継続し行くための基礎的研究。

## 内容の詳しい説明、図など

1. 音楽家・演奏家が実際にどのくらい手・上肢に機能障害があるのか、実態調査を行う。演奏する楽器の種類、音楽活動開始からの期間、練習方法とうについて調査し、現状を把握する。
  2. 動作解析:3次元動作解析器を用いて、弦楽器について、演奏時の動作分析を行う。このとき熟達した演奏家と非熟達演奏家、または、演奏する楽器の違いについても比較する。
  3. 筋電図的動作解析を行い、演奏時の筋活動の特性を調査する。
  4. 腱鞘炎、テニス肘、Focal dystoniaをもった演奏家の動作解析を行う。
  5. 特徴的な動作が明らかになれば、新鮮冷凍死体を用いて生体にかかる負荷について、生体力学的分析を行う。
- 以上から、演奏家の楽器の操作法、手の機能障害を起こさない演奏方法について助言できる様な基礎資料を作成する。



1. 演奏楽器における演奏中の動作特性を明らかにする。
2. 演奏楽器における演奏中の筋活動の特性を明らかにする。
3. 手・上肢障害のある演奏家と障害のない演奏家の動作・筋活動の比較・検討。

1. 最も筋、腱、関節に負荷の小さい演奏法
2. 演奏前後のコンディショニング:筋力・柔軟性・関節運動
3. 練習量の最適化
3. 音楽教育への提言